

カウンセラー 心のケア

2018.12.6
読売(m)15

だったが、学校行事にまで顔を出すうちに不登校生が

1995年(平成7年)、臨床心理士の鵜養啓子さん(68)は、東京都内の公立中学校にスクールカウンセラー(SC)として初めて配置された。いじめ問題や不登校対策で生徒や保護者、教員らの相談に乗るのが役割だ。

こうした相談はカウンセリング研修を受けた教員が対応してきたが、当時の文部省は「心の専門家」を学校に入れる方針に転換し、スタート時の95年度は154か所の小中高校に配置した。だが、学校側には外部の人材が入ることを「黒船来航」などと警戒する雰囲気があった。

鵜養さんの勤務は週1回



東京都内の公立中でSCとして活動した黒沢さん(1996年)

いる担任から相談を持ちかけられるようになったという。同時期に都内の別の公立中のSCだった臨床心理士の黒沢幸子さん(59)も「こちらから浴け込もうと教員や生徒に積極的の声をかけていた」と振り返る。

12年後の2007年(平成19年)、文科科学省はSC配置の効果を中学校約570校に聞いた。「教員と異なる観点の専門家効果がある」が53%、「生徒や保護者が気軽に悩みを打ち明ける存在が必要」が28%に上り、SCは現場に徐々に浸透していた。

専門家が、子供の心を守る取り組みは事件や災害でも行われた。

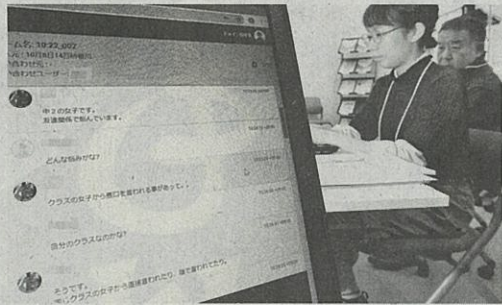
01年(平成13年)に起き

た大阪教育大付属池田小の児童殺傷事件では、不眠や情緒不安定などの症状が出た児童らに対応する「メンタルサポートチーム」が結成され学校に入った。チーム代表だった精神科医の元村直靖・大阪医科大教授(63)は「メンバーと担任が全児童の家庭を訪ねた緊急対応だった」と語る。

11年(平成23年)の東日本大震災では全国のSCらが被災地に駆け付けた。島根県のSCで臨床心理士の荒川ゆかりさん(49)は、宮城県気仙沼市を6年にわたって計24回訪れた。「通うたびに子供の変化を見て、教員や保護者に接し方を助言した」と話す。

最近SNSを使った心

SNSを使った相談員の養成も始まっている(10月、関西カウンセリングセンターで、画像を一部修整しています)



かかる一方、子供にとって相談のハードルが低く悩みが深刻になる前にSOSを出しやすい」と話す。文科省がSCを配置する学校などは17年度(平成29年度)、2万6337か所に増えた。学校教育法施行規則も17年、SCの学校職員としての位置づけを明確化した。政府は19年度までに全公立小中学校に配置することを目標に掲げる。

東京理科大の八並光俊教授(生徒指導)は、「教員とは違う視点で対応してきたSCの存在感は大きくなった。今後は常動にできるかなどが課題。学校の安全を守る他の分野の専門家も交えて子供たちを育てる流れが加速するだろう」と指摘する。(おわり)

(この連載は石橋武治、小田倉陽平、渡辺光彦が担当しました)